

# 新ひだか町立病院コラム Vol. 36

## 護身術の訓練を受けました

多くの病院では、安全管理に関する内容について、年2回程度の職員研修が義務化されています。

今回は「静内警察署」の方に『護身術の訓練』を依頼し、離脱技と攻撃技を中心に

### \* 攻撃を受けた時や受けている時の身構えと対処方法 \*

の動きを3月14日に説明受けました。

病院のみならず、多くの施設や場所では、時に想定外の出来事が起こります。そんな場面でも冷静に対処するためには、日頃から「訓練すること」「身体に覚えこませること」が大切になります。

医療現場においても職員のパニックは、患者へのパニックに繋がってしまいますので、日頃から医療安全の一つとして、様々な想定を行い、安心安全な医療の提供を目指して行きます。



👉「さすまた」は凶器を持っている相手と距離を取るには有効だが、相手を押さえ込むのには向かない。



👉護身は心と技の組合せ。危険と思わせる行動はしない。大声を出して護身をする。日頃からの意識が大事です。

## 院長のつぶやき

院長の小松です。

院内における暴力行為は不当侵入者や職員同士・・・というより患者さんからの暴力が多くなっています。

ではなぜ？ 病院職員は患者さんから暴力を受けてしまうのか・・・？

これは複雑です。まず病院で起こる患者さんから職員への暴力は

1) 疾患によるもの 2) 意図的なもの に分けることができます。

1) の例としては、認知症を患った患者さんからの暴力、せん妄に陥った患者さんからの暴力等々のように、基本的に本人の意思・意図とは無関係に職員を傷つけてしまうことです。

2) の例としては、看護師の態度にカッとなって殴る、リハビリをさせようとする職員にムカついて押し倒す・・・等々、基本的には自己の怒りを抑制が出来ない事から、職員に八つ当たりに暴力を振ってしまいます。

このことから、常に病院職員は暴力を受ける危険性が高いことから、「自分の身は自分で守る!」として、今回は職員対象の護身術講座を開催しました。

ただ、暴力から身を守るとはいえ、患者さんを投げ飛ばしたりする訳にはいかないため、「いかに患者さんを暴力に走らせないようにするか」すなわち「デ・エスカレーション (De Escalation)」が必要となり、最重要ポイントは「患者さんの怒りを暴力へと発展させない」ことです。そのためにも、患者さんのイライラが高まっているサインを見逃さない。気をそらせる。話を聞くなどし、自分自身を守る意味でも、患者に寄り添った医療を向上しています。

作成: 新ひだか町立病院

🌸 町立静内病院 0146-42-0181 (代表)

新ひだか町静内緑町4丁目5番1号

🌸 三石国保病院 0146-33-2231 (代表)

新ひだか町三石本町214番地